

熊本地震被災文化財への技術的支援

災害による悲しいニュースを耳にすることがしばしばあります。奈良文化財研究所では、被災した文化財の保護を目的とした多様な活動を進めてきました。遺跡・調査技術研究室では、被災した遺跡の現況把握のための迅速な状況計測と、発掘調査等によってあきらかになる災害痕跡の分析や統合による災害考古学の研究等を通じて、文化財の保護に資する研究をおこなっています。

熊本地震については、熊本城をはじめ多くの文化財や遺跡に被害が出ています。私達は熊本県や県内の市町村、文化庁等と連携して、これらの被害の把握や対応のための基礎情報の取得を通じて支援を進めています。昨年度は研究室の機材を長期間熊本県に移動させて、被災古墳の状況調査に対する支援をおこないました。

井寺古墳では、周辺の計測と地中レーダー・電磁探査をおこない、亀裂に入る墳丘の表面の情報に加えて、地中の石室の状況をあきらかにすることができます。塚原古墳群と小坂大塚古墳でも同様に周辺の計測と地中レーダー探査をおこない、地下の情報をあきらかにし、現在地表で観察できる被害の要因についての検討を進めています。

しかし、地震でいかに変化したのか、という点は災害以前の情報がなく、わからないのが残念です。遺跡保護には平時からの情報収集が大切なことを痛感しました。被災地域で苦闘されている担当者の方々にいかに支援ができるのかと日々考えながら、活動を続けています。

(埋蔵文化財センター 金田 明大)



井寺古墳の地中レーダー探査風景（空中ドローンより）

平城宮いざない館の開館

平城宮いざない館は、国土交通省が朱雀門前に建設を進めてきた平城宮跡歴史公園のガイダンス施設です。奈良文化財研究所では、2009年度より、その展示室4「時をこえて」について協力をおこなってきました。そして2018年3月24日、平城宮跡歴史公園の開園式典を迎え、いざない館もオープンしました。開館後は、大変多くの方々に来館していただき、展示室4もすこぶる好評です。

「時をこえて」は3つの部屋で構成されており、I「都の造営」、II「平城京」、III「平城宮」というテーマで展示をおこなっています。一般に混同されがちな平城宮と平城京の、両者の違いや実像等を、部屋を分けることでよりわかりやすく紹介しています。また、専門的な内容を広く一般の方にお伝えするために、難しい専門用語を使わず、復元画家の早川和子さんのイラストも多用しています。

展示品は、約600点にのぼります。その多くが、奈文研の発掘調査で出土したものとそのレプリカです。また、市内の寺院や奈良市教育委員会からの借用品もあります。そのため、これらを維持管理していくには、専門的な知識を備えた奈文研の関与が必須といえます。そこで、奈文研では、展示室4での学芸業務を受託することになりました。

平城宮跡解説ボランティアに案内解説の協力を得て、奈文研の調査研究成果の展示公開の場という位置づけとなった平城宮跡資料館と役割分担をしながら、平城宮跡を舞台とした展示活動をおこなっていきたいと考えています。

(企画調整部 加藤 真二)



展示室4「時をこえて」